

記念号の刊行にあたって

小田 宏信

井出多加子先生と川越俊彦先生が、2023年3月末で成蹊大学経済学部専任教員の職を引退されました。井出先生は定年を機に研究に専念される道を選ばれ、川越先生は2020年3月に定年を迎えられた後も成蹊大学特別任用教授として本学の教育・研究活動に尽力されました。両先生とも30年以上の長きにわたって、経済学部及び成蹊大学の発展・充実のため、さまざまな形で多大な貢献をされました。本号を退職記念号とすることで、両先生への感謝のしるしといたしたいと思います。

井出多加子先生は、上智大学経済学部および同大学院経済学研究科で修士号までをお取りになった後、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士後期課程に進学され、1992年4月に成蹊大学経済学部に専任講師としてご着任になりました。以来、31年間を成蹊大学にてお過ごしになりました。ご在職中、1997年5月に、学位論文“Four Essays on Dynamics of Land Price”で慶應義塾大学より博士（経済学）の学位を取得されています。学位論文名からもわかるようにご専門の核心は不動産経済学ですが、労働市場分析や地域経済分析にも造詣が深く、3者の分析を結びつけた地域活性化の方策にご関心をお持ちのものと拝察しております。ご専門の関係から、国土交通省や東京都を中心に政府機関や地方自治体の委員を多数お受けになって社会的に貢献されたことは特筆されます。経済学部内においては、経済学部長・経済経営研究科長を2016年度から2018年度にかけておつとめになりました。当時の北川浩学長の方針のもとで井出先生は従前の経済学部の新経済学部と経営学部への分離を方向づけられ、ご心労も絶えることはなかったのではないかと感じております。学部教育では、地域経済の現場の方々と連携したPBL型の授業をいち早く導入され、武蔵野市内や秩父市内にてその実践を重ねられました。こうしたフィールドワーク×PBLの授業は新経済学部の現代経済学科の教学上の一つの柱に据えられました。

川越俊彦先生は、1977年に北海道大学農学部農業経済学科をご卒業後、農林水産省に就職され、1990年度まで同省農業総合研究所の研究員、主任研究官、開発経済研究室長などを歴任されています。その間、学位論文『国際間農業生産性格差とその要因』を北海道大学に提出し、同大学より農学博士を取得されています。成蹊大学経済学部には1991年に着任され、

2023年3月のご引退まで32年間、本学のために尽力されました。学部内では、「経済発展論」や「資源の経済学」などご専門に直結した科目のほか、情報分析プログラムでの技能系科目にも注力されました。また、2010年度から2015年度までの6年間、副学長という要職を務めておられます。川越先生が副学長の時代には、副学長がお一人ということもあって大学運営の様々な分野で活躍されました。私にとって印象的だったのは2016年1月に最終発表会のあった「成蹊大学2018プロジェクト」であります。私も発表会を見学させていただいたのですが、学長から副学長への諮問を受けて職員有志の方々が4つのグループに分かれて川越先生のもとに集い、数年後の成蹊大学のあるべき姿を議論し、プレゼンテーションするというものでありました。その時のプレゼンのうち、トラスコンガーデンの前にキッチンカーが営業しているパースだったり、学生たちの相互学習の場であるラーニングコモンズの構想であったりが記憶に残っています。キッチンカーはすぐに実現しましたが、ラーニングコモンズは2024年秋に実現見込みです。

長年、成蹊大学と成蹊大学経済学部のために尽力された両先生に心から感謝申し上げるとともに、ますますのご健勝と一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます次第です。

なお、本来であれば本号の冒頭に両先生の肖像写真を掲載いたすところですが、井出多加子先生におかれましてはお写真の掲載を固辞されました。両先生には、4月1日付けで成蹊大学名誉教授の称号が贈られました。

(成蹊大学経済学部長)